
Re:try

夜鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

R e : t r y

【Nコード】

N 5 7 7 8 D

【作者名】

夜鳥

【あらすじ】

——もし。ここから飛び降りても、死なないとしたら。何度この世界から逃れようとするだろう。

P r e l u d e

湿った風の吹く街。

馴染んだ潮の香りさえも息苦しくなる。

目眩がする。

この輝いた世界に。

屋上には風を遮るものなど無い。

有るのは錆びた保護柵だけ。

後は空にある黒ぐらいだろうか。

風が吹き付ける。

それらは僕の体を吹き飛ばそうと、強く押してくる。

もっと吹くと良い。

もっと風が欲しい。

手を伸ばしても掴めない形が僕を包んでいる。

耳に流れ込むこの音を感じたい。

通い慣れた都市を見下ろして。

——もし。

ここから飛び降りたとしても、死なないとしたら。

僕は何度飛び降りるだろうか。

ただ、それだけを考えていた。

2nd

いろいろな事に飽き飽きしていた。

受験も、交友関係も、繋がりのある全てのものの全部に。

『何もかも壊れてしまえ』

そう望んでもかなわないのはこの世界でこの時代。

人々は繋がる為に、科学や技術を進歩させたのだから。

なら僕が消えてみようか。

そう思ったのが、事の始まり。

人間というイキモノ。

なんて汚らしい。穢らわしい。

欲にまみれた顔はどれも不細工。

きらびやかな衣装はそれと同等。

それをいくら良く見せようと、全て張りぼての形。

自身が美しい訳じゃない。

美しいのは人じゃなくて“物”

そう思っていれば、全ては平等。

『貴方のため』と言い寄る親と教師には、自分の欲を満たす為の道具でしかない。

『ずっと友達だよ』安く言うクラスメイトはいつか他人を蹴落としてやると必死で。

『何か悩んでるの』そういうのが嫌なのだと分かりもしない偽善者ばかり。

いろんな事がくだらない、世界。

要らないものがなくなつて行く、世界。

要らないものと決めつける、世界。

全てが嘘で廻る様なガタついた、世界。

嘘が潤滑油になる様な世界では、どの人も皆傲慢で嘘つきな一面を持つ。

自分が当事者にならぬよう隠れて、罪から逃げる。

それが政治家であれ、一般人であれ、罪は罪だ。

そして罪には罰。

その対等な関係さえも崩れだすこの世の中。
嫌気がさしたっていいだろう。

生きる気がなくなっ たっていいだろう。

人間は臆病なだけで、自ら命を絶てない。

刃物を肌にあてるのさえもためらう様な弱い生き物。

いつの間にこんな弱くなった？

自覚の無いまま衰退していく事の恐ろしさに気付かないのは更に愚か。

『昔』を語れる程生きてはいない僕だけれど、この世の中が腐つてゐる事ぐらい分かつてる。

自分に必要を感じないなら、自分で死んだっていい。
そんな世界に僕は生まれた事。

只それだけには感謝している。

3 r d

学校で配られた教育機関のアンケートに、こう書かれていた事がある。

『死』についてどう考えていますか。

『死にたい』と思った事はありますか。

また、それはどんな時ですか。

と。

僕の答えはいつもこう。

『死』とは存在を消す事で存在を表す事

『死にたい』と思った事はこれまで全てだと思い出せない位。

この自分という人間に飽き飽きしてきた時。

すべて自分の思う事。

誰が言うても無く、自分自身がこう思ってる。

だから何という訳ではないけど、死ぬという事はどういう事なんだろうと何時も考えてた。

『死』というのは存在が消える事、関係を断ち切る事、肉体として存在しなくなる事……

どれも当てはまるようでそうでない気がする。

考える分だけ矛盾に気付く。

『死ぬ』

それはどういうモノなのだろうか。

何時、何処に居ても、何をしていても、一人部屋に居るのとかわからない。

学校に居て友達という存在と爆笑している時でさえ、冷めた目で見つめる自分がもう一人居るみたいな感覚。

もつずっと昔からの事だけれど、最近はそれに加えて、毎夜見る

ようになつた夢がある。

それはとても可笑しくて、なのに恐ろしくて、けれど何故か頭に
残る様な、ひどく惹かれてしまう変な夢。

その夢は、『死ぬという事』を語っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5778d/>

Re:try

2010年10月28日07時00分発行